

苦しい生活のこと、一緒に考えたい

「電気や水道などのライフラインが止まった」「仕事がない」。
さまざまな課題を抱えて困窮している人を支える、
「生活困窮者自立支援制度」。暮らしの自立に向けて、
共に伴走する人たちがいます。

生活の困りごとの背景には
多様な課題が隠れている

「食べ物がない」「家賃が払えず住む場所がない」「電気と水が止まりそう」。名張市社会福祉協議会（なばり暮らしあんしんセンター）には、さまざまな相談が寄せられます。数回の面談と助言で解決する相談もあれば、年単位で伴走・支援が必要な相談もあり、状況は人それぞれです。

困りごとの背景には、住まいや健康状態、家族関係、仕事など、複数の生活課題が隠れているこ

とが少なくありません。中には、本人だけの問題ではないケースも。例えば、「今すぐ市営住宅に入りたい」と相談に訪れた人に詳しく話を聞くと、「家族が通帳などを持ったままいなくなってしまう、無職の自分では家賃が払えなくなった」と、家探しより先に解決すべき課題が見つかる場合があります。こうした困りごとに寄り添い、課題の解決や自立に向けて支えるのが、「生活困窮者自立支援制度」です。

安定した生活を守る
3つのセーフティネット

生活が苦しくなった時は、3層のセーフティネットを立て直しを図ります。「生活困窮者自立支援制度」はその一つ。社会保険などで支えきれない人を生活保護に至る前にサポートし、課題が深刻になる前に必要な支援を行います。生活保護から自立した人の支援をする場合もあります。

第1の
ネット

・社会保険制度
・労働保険制度

第2の
ネット

・求職者支援制度
・生活困窮者自立支援制度

第3の
ネット

・生活保護制度



課題の整理から、対応方法の検討まで—— 生活の立て直しを、あなたの隣で伴走します

病気や失業、介護——少し歯車がずれるだけで、誰でも生活が回らなくなることがあります。そんな時には、一人で思い悩まずに、あなたの相談を待っている相談支援員がいることを思い出してください。

相談されたら、まず状況の整理から始めることを意識しています。本人は目の前のことで頭がいっぱいになって、何が課題なのかを冷静に考えられ

ない場合も多いので、本人と一緒に課題を整理することが支援のスタートなんです。

支援の本質は、代わりにやってあげるのではなく、その人自身の力を引き出すこと。私たちは隣で伴走しながら、必要な手続きや情報を整え、方法を一緒に考えます。市役所やハローワーク、一般就労が難しい人の受け入れに協力してくれる企業など、生活の立て直しに欠かせない機関との橋渡しも行いますので、安心してなばり暮らしあんしんセンターにご相談ください。

不登校

不登校が長引くと、将来のひきこもり状態につながる可能性もある。子どものために親が離職するケースも。

病気・事故

突然の病気や事故で離職。治療などで定期的に働けない。

ひきこもりの状態

社会との接点を持ちにくい。コミュニケーションが苦手。

低年金

年金だけで生活できず生活苦に。年齢を理由に就職できない場合も。

「困りごと」の背景は、ひとつじゃない。

本人だけでは解決できないこともある。

失業、転職苦

職が見つからない、長続きしない。就職氷河期の影響で、非正規雇用を転々としている。

介護

働きながら介護をする「ビジネスケアラー」。介護のために離職せざるを得ない場合も。

8050 問題

無職などの中高年の子（50代）と高齢の親（80代）が暮らす世帯は、孤立や生活の不安を抱えやすい。

生活や暮らしで悩んだら、まずはご相談ください。相談無料・秘密厳守

名張市社会福祉協議会（なばり暮らしあんしんセンター）

「生活困窮者自立支援事業」は、市の委託を受けて実施しています。

☎ 64 - 1526 平日 8:30 ~ 17:15（土日祝、年末年始は休み）

☎ 0800 - 200 - 7831 平日 10:00 ~ 16:00（土日祝、年末年始は休み）

「家計のやりくりが難しい」「自分に合った仕事が見つからない」「どこに相談すればよいか分からない悩みがある」など、まずは電話でご相談ください！一緒に対応法を考えます。

「職場に来たら、いつでも仕事があるよ」

従業員同士で助け合い、どんな人も一人の仲間として自然に受け入れる。そんな空気が、ここにはあります。

ご協力いただいている事業者の皆さん



有限会社 山名産業



どんな人が来るのかが分からず、戸惑いました」と、代表取締役の山名建次さんは振り返ります。「困っている人のために何かしたいという思いは昔からあったので、見学して本人がやりたいなら、と採用を決めました」。

受け入れるにあたって、特段ルールなどは設けなかったといいます。なぜなら、そもそもの働き方が自由だったから。勤務時間は各自が調整でき、欠勤連絡はグループLINE。今まで受け入れた人たちも、最初は1日1～2時間、週数回の勤務から始めて、自身の体調などに合わせて少しずつ勤務時間を延ばしていったのだそうです。

スポーツネット

の製造などを手がける山名産業には、3人の支援対象者を雇用いただきました。「最初に話を聞いた時は、

従業員も、支援対象者を一人の仲間として当たり前を受け入れました。短時間しか働けない人には、周囲が自然にその人のできる作業を残しておくこともあります。支援対象者のことをよく気にかけている、従業員の中田一恵さんはこう語ります。「その人だけを助けようじゃなく、皆で助け合って仕事をしているんです。できない作業があるなら違う作業をすればいいし、長く働けないならそれでもいい。『来たらいつでも仕事があるよ』と言える職場だから、従業員誰もが無理しなくていいんです」。

会社に良い変化もあったといいます。山名さんは、「その人を支えようと、従業員のチームワークが向上。就労支援に関わったことで、今まで接点のなかった福祉関係者とのつながりも生まれました」と話してくれました。



山名代表取締役と中田さん

職場見学や体験の場の提供にご協力いただける事業者を募集しています



人手不足で悩む企業と、現状、一般的な就職が難しい人、お互いにメリットがある取組です。双方が良い形で助け合えるよう、私たちがサポートします。関心を持っていたら、ぜひ一度ご連絡ください！

講演会「柔軟な雇用から生まれる多様な人材の確保（仮称）」を開催



超短時間雇用など、多様で柔軟な働き方を考えませんか？

時 3月20日（金・祝） 10:00～11:30

所 総合福祉センターふれあい 定 50人程度（先着順）

講師 東京大学 先端科学技術研究センター

社会包摂システム分野 特任助教 松清 あゆみ さん

申 2月20日 9:00～3月17日 18:00に、✉ jiritsu@nabarishakyo.jp、ファクス、電話で問合先へ

協力事業者のおかげで、 一歩踏み出せる人がいる



支援対象者が生活を立て直すためには、収入を得るための仕事が必要な要素の一つです。しかし、生活習慣が乱れていたり、コミュニケーションに不安を抱えていたり、一般的な就職が難しい人もいます。市内には、そんな人たちの事情を理解した上での雇用や就労体験の場の提供など、支援対象者の自立支援に協力をお願いしている事業者があります。今回はその中の2社にお話を伺いました。

有限会社 ウメザワ



ご協力いただいている事業者の皆さん

「支援対象者に協力するのは、企業として当たり前だと気づいた」

いろいろな事情があって働いていない期間があった人も、今や会社にとってなくてはならない存在。就労を目指す人が、理不尽にはじかれぬ世の中に。

家庭用木製品などを製造するウメザワには、支援対象者の雇用や、就労に向けた準備をする「就労体験」に協力いただきました。そのことを、社長の梅澤尚史さんは「特別なことをしているわけではない」と話します。「就労支援のために支援対象者に協力するのは、企業として当たり前だと思うんです。行政がいくら支援しても、最後は収入を得ないと生活できない。就職の入口を握る企業が、履歴書と面接だけではじいたら、自立が遠のきますよね。『誰でも採用する』のではなく、能力を認める採用の『第2の窓口』が必要だと思います」。



梅澤代表取締役社長

就労支援を当たり前だという梅澤さんですが、最初は「就労支援は大きな会社がやるもの」と思っていたといいます。社会貢献のつもりで受け入れを決めた梅澤さんの転機は、就労体験で来ていた人を採用できなかったことでした。「真面目に一所懸命に作業を

してくれたので、本当は働いてほしかったのですが、人を雇ったばかりで難しくて…。体験終了後、その人の行く末を案じるうちに、考えが変化していったそうです。



「どんな背景を持つ人でも、仕事と環境が合えば活躍できます。能力が低いわけではなく、自己表現やコミュニケーションが苦手なだけという人も多いと思うんです。実際、いろいろな事情で働いていない期間があった人や、リタイアした高齢者（最高齢は81歳）も、今では会社に欠かせない存在になっています」と梅澤さんは話します。「就労体験は、履歴書や面接では見えない適性や人となりを知る絶好の機会。より多くの企業が、当たり前にならぬ就労支援を採用の場でも活用するようになったらいいですね」と話してくれました。